

期末考査が始まります。

文責 学校長



～計画的な学習で学力の確実な定着を図りましょう。～

1 今年度最初の定期考査です。十分な準備と学習に取り組みましょう。

今週の木曜日（7月2日）から、今年度最初の定期考査である1学期期末考査が始まります。1年生にとっては高校入学後初めての考査となり、試験科目も14科目と3学年で1番多いので、しっかりと準備をして試験に臨んでください。どうせ勉強するなら満点(100点)を目指して頑張りましょう。『100点取れたら諸君の勝ち。取れなかったら先生の勝ち』ぐらいの気持ちで頑張りましょう。今回は土・日を挟んだ試験日程になっていますので、試験期間中の土・日を有効に活用すれば、十分な学習時間が確保できるはずで、4日間の期末考査での諸君の健闘を祈ります。



2 「TAKEO WEEK」に取り組みました。

1年生は「探究」学習の一環として、6月18日～24日の5日間、朝読書の時間に「TAKEO WEEK」として、武雄市のことを知る・学ぶ・考える学習に取り組みました。本校は昨年度から武雄市とコラボして「武雄市まちづくり参画事業」に取り組んでいます。高校生の視点で郷土のまちづくりに積極的にアイデアやプランを提案しています。その手始めとして、まず武雄市の①防災②創造的復興プラン③歴史と観光④新幹線⑤多文化共生の5つのテーマについて学ぶことからスタートしました。右は第3回の資料です。

【vol. 3「武雄市の歴史と観光」より】

1 記事から読み取ろう！

- ①武雄温泉の歴史は？
- ②戦国時代、武雄温泉の入浴心得を示した武将は？
- ③武雄温泉楼門・新館の設計者は？
- ④武雄焼は約何百年前に作られ始めた？
- ⑤武雄市内3本の大楠の名前は？

2 広げよう・深めよう

○武雄の観光や歴史について、もっとたくさんの人に知ってもらい、親しんでもらうためにはどうすればいいと思いますか？アイデアを自由に書いてください。

3 今週の話事成語・・・『雨垂れ石を穿つ』

【問題】『雨垂れ石を穿つ』を英語で表現すると？また、この語と同じ意味の類義表現は何？

軒下から落ちるわずかな雨垂れでも、長い間同じ所に落ち続けられれば、ついには硬い石に穴をあける意味から、どんなに小さな力でも、根気よく続けていけばいつか成果が得られるということ。（出典：『漢書・枚乗伝』より）

【由来】『漢書・枚乗伝』にある、漢の枚乗が呉王を諫めたときに言った「泰山の霤は石を穿ち、単極の航は幹を断つ（泰山の雨垂れは石に穴をあけ、井戸のつるべ縄は井戸を壊す）」という言葉が元になっています。「穿つ（うがつ）」とは、穴をあけるという意味。雨垂れも井戸のつるべを引く縄も、一回だけでは少しの力ですが、何度も何度も繰り返されることで、どんな丈夫なものでも壊してしまいます。「継続は力なり」という言葉の通り、日々地道にやっっていくことの積み重ね、つまり今の君たちの日々の努力が数年後必ず生きて来るということ。（参考：「故事ことわざ辞典」）

4 今週の名言・・・七田眞氏（島根県出身）の言葉です。

○良い言葉は生命力を高め、また悪い言葉は生命力を奪います。あなたが人生で成功を望むなら、良い言葉を意識して使うことです。

○いいかい、学校を出てからが本当の勉強だよ。大抵の人は学校を出ると本を読むのをやめてしまいが、絶えず本を読み学び続けることが大切だよ。それが人生の勝利者になる秘訣だよ。

【解説】日本における早期幼児教育の必要性を提唱した「七田式教育法」を世に広めた七田眞氏の言葉です。良い言葉を使うことと読書の大切さを訴えています。子供の心、他者への愛情、夢、志を育てる「魂の教育」を提唱し、知育、徳育、体育、食育をベースに全人格的教育を目指す教育法を提唱しました。「認めてほめて愛して育てる」を教育理念とし、親への子育てのアドバイスやサポート等も行いました。

【七田眞について】1958年、島根県江津市に「児童教育研究所」という塾を開き、子供の潜在能力を引き出す、幼児の右脳教育に始まり、食育、大人の右脳開発へと展開しました。人間が生来持つ右脳の優れた能力に、イメージトレーニング、カードフラッシュ、記憶法など脳の発達理論に基づく様々な取り組みで働きかけ、読み書き、プリント学習など左脳を使う取り組みとも併せて、能力や知識の定着を図ることを目指した七田式教育を提唱。特に『0歳教育』を提唱して反響を呼び、78年には「七田児童教育研究所」を創立するとともに、日本国内での展開を開始。87年からは七田式教室校長を務めました。海外展開も始まり、現在19の国と地域に広がっています。（参考：「Wikipedia」）

5 入試によく出る漢字・・・『一字訓ベスト400』から・その8 いくつか読めますか？

- ①焙る（焙煎） ②弾く（連弾） ③扶ける（扶助） ④剥ぐ（剥離） ⑤育む（教育）
- ⑥励る（勉励） ⑦阿る（阿諛） ⑧容れる（容認） ⑨嫁ぐ（花嫁） ⑩稼ぐ（稼働・稼業）
- ⑪彩る（彩色） ⑫算える（計算） ⑬咬む（犬が一） ⑭伺う（伺候） ⑮惰る（怠惰）
- ⑯映える（反映） ⑰度る（度量） ⑱凶る（意凶） ⑲履く（履物） ⑳眺める（洋服を一）

6 今週の一冊・・・齋藤孝氏の「読書する人だけがたどり着ける場所」(SB新書)です。

「本」を読むからこそ、思考も人間力も深まる—「ネットで情報をとるから本はいらない」という風潮が広がっていますが、それは本当でしょうか?私たちは日々ネットの情報に触れますが、キーワードだけを拾い、まったく深くなっていない、ということも多いのではないのでしょうか?読書だからこそ、「著者の思考力」「幅広い知識」「人生の機微を感じとる力」が身につきます。ネットの時代にあらためて問いたい「読書の効能」と「本の読み方」を紹介します。(参考:本書裏表紙説明より)

【解説】テレビのコメンテーターとしてもお馴染みの齋藤孝先生の最新刊文庫本です。本書の前書きで齋藤先生が述べておられるように「読書が人生の深みをつくる」というメッセージに深く共感する内容の本です。硬い内容では決してなく、200ページ弱の分量なのでさっと読めてしまいます。おすすめの本(思考力を高める名著10・現代に必要な知識が持てる名著10・人生の機微に触れる名著4・人生を深める名著6・難しくても挑戦したい不朽の名著10)も紹介されていますので、生徒諸君はもとより先生方にもお薦めしたい一冊です。

【作者・齋藤孝氏について】1960年静岡県生まれ。東京大学法学部卒業後、同大大学院教育学研究科博士課程等を経て、明治大学文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。ベストセラー作家、文化人として多くのメディアに登場。著書多数。『語彙力こそが教養である』(KADOKAWA)は17万部を突破するベストセラーに。著書発行部数は1000万部を超える。NHK・Eテレ「にほんごであそぼ」総合指導。(参考:本書表紙裏の著者紹介文)

7 日本全県の名所とスイーツめぐり・・・第12回は島根県です。

○名所 (参考:「ぐる旅」その他より)

◆出雲大社・・・島根県は幼いときに通過しただけで立ち寄っていないので、是非一度訪れたいと思っている県です。中でも出雲大社は外せません。伊勢神宮に並ぶ古社で大国さまとして親しまれる大国主命を奉っています。縁結びの神・福の神としても親しまれています。1744年に建てられた本殿は、日本で最も古い神社建築の形式である大社造りで、国宝に指定されています。参拝方法が「二拝四拍一拝」と一般の神社(二礼二拍手一礼)と異なります。この点は心得ておいた方が良いでしょう。

◆足立美術館庭園・・・近代日本画を中心とした美術館で特に横山大観の絵を数多く収蔵していることで有名です。北大路魯山人の陶器も見ることができます。魯山人ファン(『美味しんぼ』ファン)の私としてはここも是非訪れたい美術館です。また、自然環境を生かした約5万坪の日本庭園は、枯山水庭、白砂青松庭、苔庭、池庭など館内至る所から異なった風情を楽しめます。春はツツジ、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、四季折々の美しい庭園は一見の価値があります。米国の日本庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング」の庭園ランキングで連続日本一に選ばれています。

○スイーツ・土産
【源氏巻】山陰の小京都・津和野の銘菓「源氏巻」は、元禄時代にはじまり現代に至るまで親しまれ続けているお菓子です。カステラ状の皮に餡が包まれている素朴なお菓子で、その味わいには奥深さと素材の優しさが感じられます。しっかりと焼き上げられた薄皮はとともキメが細かく、手に取ると吸い付くようにもちもちです。口どけの良いこしあんと一体になると、優しい甘さが口いっぱいに広がります。幅広い年齢層の方に好まれるおいしさで、お土産に最適です。

【若草】松江藩第七代藩主・松平不昧公の歌に由来して命名されたお菓子「若草」は、松江の代表的な銘菓です。ふっくらとした求肥に薄緑の寒梅粉をつけたお菓子は、若草そのものの色味から、春の野の姿を彷彿とさせます。奥出雲地方で取れた最上級のもち米を使用して練り上げた求肥は、弾力がありモチモチで、一つひとつ手作業でまぶしたそばをしっかりとまとめています。切り分けてお茶請けとして頂くのもオススメ。美しい緑色はテーブルの上でもよく映えます。

8 保護者の皆様へ・・・お弁当の購入ができるようになりました。

保護者の皆様からご要望のあった弁当の注文・購入が可能となりました。当日注文して購入できるようにいたします。

【表面の問いの答】※「Constant dripping wears away the stone.」(たえず垂れ落ちる滴は石にさえ穴をあける)類義語としては「蟻の思も天に届く/思ふ一念岩をも通す/斧を研いで針にする/愚公、山を移す/人跡繁ければ山も凹む/水滴石を穿つ/精神一到何事か成らざらん/塵も積もれば山となる」などがあります。

①あぶる ②はじく・ひく③たすける ④はぐ ⑤はぐくむ⑥つとめる⑦おもねる⑧いれる⑨とつぐ⑩かせぐ
⑪いろどる⑫かぞえる⑬かむ⑭うかがう⑮おこたる・なまける⑯はえる⑰はかる⑱はかる⑲はく⑳あつらえる